

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 29 年 4 月 13 日 (2017.4.13)

【公表番号】特表 2016-515885 (P2016-515885A)
 【公表日】平成 28 年 6 月 2 日 (2016.6.2)
 【年通号数】公開・登録公報 2016-034
 【出願番号】特願 2016-502787 (P2016-502787)
 【国際特許分類】

A 6 1 C 7/34 (2006.01)

【F I】

A 6 1 C 7/34

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 3 月 8 日 (2017.3.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

歯科矯正装具であって、
 歯に取り付けるための接合表面を有する基部と、
 前記基部から外方に延在する本体であって、該本体上に細長いスロットが概ね近心側 - 遠心側の方向に沿って延在する、本体と、
 前記本体の上に配設された第 1 及び第 2 の突出部であって、それらの間に前記スロットが延在し、前記第 2 の突出部が、前記基部に向かう方向に延在する、第 1 及び第 2 の突出部と、

前記本体に摺動可能に係合されかつ開放位置と閉鎖位置との間で移動可能なクリップと、を備え、前記クリップが、前記スロット上に延在する基準平面に沿って整列された少なくとも 1 つの偏向可能部分を含み、前記クリップが開放位置と閉鎖位置との間を移動すると、前記少なくとも 1 つの偏向可能部分が、前記基部に向かう方向に前記基準平面の外側へ弾性的に屈曲して前記第 2 の突出部を横断する、歯科矯正装具。

【請求項 2】

前記本体上に一对の逃げ溝を更に備え、前記クリップが、前記一对の逃げ溝に受容された近心側支柱及び遠心側支柱を更に含む、請求項 1 に記載の歯科矯正装具。

【請求項 3】

前記クリップが、前記近心側支柱と遠心側支柱との間に位置付けられた第 1 及び第 2 の開放領域を更に含み、前記少なくとも 1 つの偏向可能部分が、前記第 1 及び第 2 の開放領域を互いから離隔させており、前記クリップが閉鎖されているときには前記第 1 及び第 2 の突出部が異なる開放領域を占有する一方、前記クリップが開放されているときには前記第 1 の突出部が前記第 2 の開放領域を占有し、前記第 2 の突出部がいずれの開放領域も占有しない、請求項 2 に記載の歯科矯正装具。

【請求項 4】

前記第 2 の開放領域が、前記近心側及び遠心側支柱、並びに少なくとも 1 つの偏向可能部分により集合的に画定されており、前記少なくとも 1 つの偏向可能部分が、前記近心側及び遠心側支柱を相互に接続する前部支柱を含み、前記クリップが開放位置と閉鎖位置との間を摺動すると、前記前部支柱が弾性的に屈曲して前記第 2 の突出部を横断する、請求項 3 に記載の歯科矯正装具。

【請求項 5】

歯科矯正装具を使用する方法であって、

基部と、前記基部から外方に延在する本体と、前記基部上に配設され概ね近心側 - 遠心側の方向に沿って延在する細長いスロットと、を備える前記装具を提供する工程と、

前記本体に摺動可能に係合される開放領域を有するクリップを提供する工程と、

前記クリップを開放位置から閉鎖位置に向かって摺動させ、それにより、前記クリップの第 1 の偏向可能部分を第 2 の突出部に対して付勢する工程と、

前記第 1 の偏向可能部分を前記基部に向かう方向に弾性的に屈曲させて前記クリップに前記第 2 の突出部を横断させ、前記第 1 及び第 2 の突出部の両方を前記開放領域内に配置して前記クリップを前記閉鎖位置に保持することを可能にする工程と、を含む、方法。